２０２２年度　支援活動報告（データ編）

2022年度のデータ検証の前提

感染対策をした上で対面研修をするスタイルが確立され，研修は2019年度並みの水準に戻りました．階層化の強化は直ちに個別支援の縮小を意味する訳ではありません．またその狙いは支援の広がりのためである点が重要です．

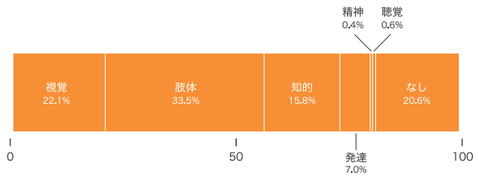
障がい種別の割合

【視覚障がい】眼科外来での支援．【肢体不自由】意思伝達装置の導入支援などを実施．【聴覚障がい】難聴の生徒への授業について相談対応等を実施．【知的・発達障がい】読字障がいのある児童・生徒の学習環境整備や受験配慮アドバイス．【なし】対面と動画配信を組み合わせて研修を実施中．

障がい種別 集計

	視覚	肢体	知的	発達	精神	聴覚	なし
2022年度	152	231	109	48	3	4	142

(単位：件)



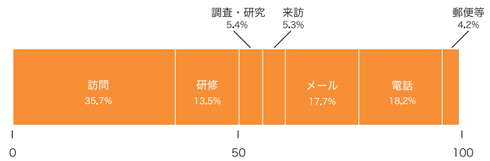
相談方法別の割合

傾向は例年と変わりませんが来訪数が戻ってきました．訪問先の病院，施設などの規制も緩和され訪問しやすい状況になっています．ATティービーのコンテンツが充実してきたので，訪問後の復習．YouTubeの無料Webinarと併せて階層型支援モデルが推進がされてます（詳しくは後述）．

相談方法別 集計

	訪問	研修	調査	来訪	メール	電話	FAX	郵便等
2022年度	204	77	31	30	101	104	0	24

(単位：件)



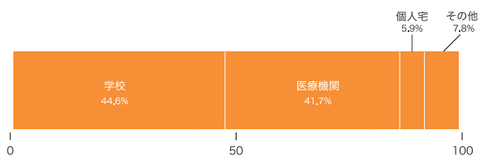
訪問先の内訳

訪問先は例年と変わらず学校と医療機関がほぼ半々でした．【学校】研修の他，教室を回って授業における機器活用のアドバイスなどを行いました．【医療機関】眼科への定期訪問やリハビリーションでの機器提案などを実施しました．【個人宅】在宅療養中の方のPC・タブレットの導入相談，視覚障がいのある方のPCセットアップ支援などを実施しました．

訪問先 集計

	学校	医療機関	個人宅	その他
2022年度	91	85	12	16

(単位：件)

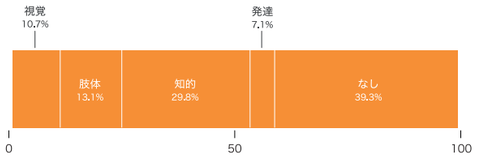


依頼研修

2022年度，依頼研修は対面とオンライン合わせて全77回開催し，のべ1,369名が受講しました．

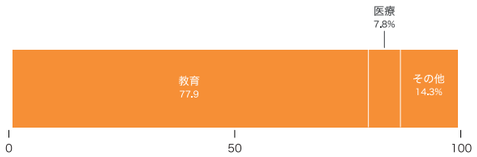
分野

市立特別支援学校2校への定期訪問が始まったため知的障がい分野が約30%と多くなっています．「なし」は障害種を定めず広く浅く全般的な内容を扱う研修です．



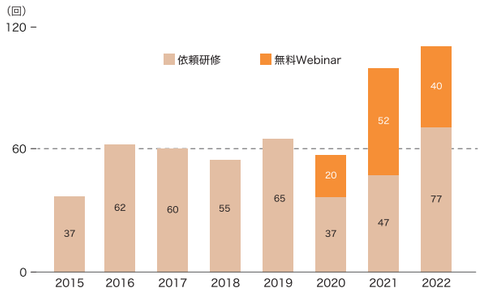
依頼元の種別

教育系の依頼がおよそ8割を占めています．医療系大学からの講義依頼も教育系に計上しているので偏りがあるように見えています．内容もディスレクシアをはじめとする発達障がい分野から，重度重複障がい分野に至るまで広範に渡ります．医療系の研修では肢体不自由やコミュニケーション支援に関する内容が多くなっています．



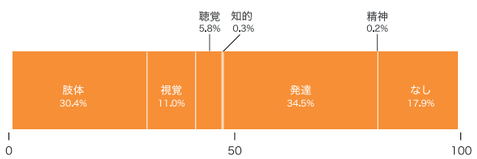
無料Webinar「ATティービー」

2022年度に公開したWebinar動画は40本でした．総再生回数は4万6千回を超えています．個別支援をした利用者が復習に活用したり，市内で活躍するリハスタッフや特別支援教育に携わる教員の専門性向上に活用されています．市外，国外からの視聴，コメントもありました．



分野別視聴割合

無料Webinarでは発達障がいや肢体不自由向けの支援技術を取り上げた動画の視聴割合が高いです．昨年までは広く浅い内容を取り扱った「なし」の動画の視聴割合が多かったので，異なった傾向が現れています．また前掲の障がい種別の支援割合とも異なった傾向になっています．タブレット端末の音声読み上げや音声認識を活用したノートテイク方法の動画が多くの視聴者を集めました．



新潟市障がい者ITサポートセンター

アニュアルレポート 2022

ANNUAL REPORT 2022

Addr.：新潟市西区五十嵐2の町8050 新潟大学大学院自然科学研究科内　Phone/Fax：025 - 262 - 7774　Mail：nitsc@eng.niigata-u.ac.jp

新潟市障がい者ITサポートセンター

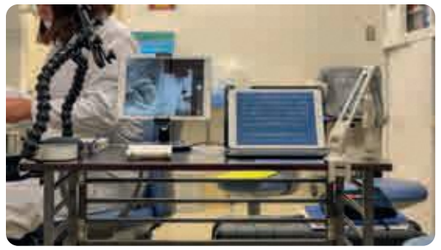
個別支援事業

子どもたちが「フェア」に学べる道具
大人たちが「フェア」に働ける道具
特性に合った支援技術が支える学びと生活。

コロナ禍の個別支援

【教育関係】GIGAスクールが始まり特別支援学校には支援機器が「入出力支援装置」として配備されています. 学校での支援ではこの入出力支援装置とタブレット端末を組み合わせた活用の提案などを行っています. 個別ケースでは, 発達障害のある生徒の受験環境の提案, 肢体不自由のある児童・生徒のタブレット端末等の固定, 操作インタフェース提案, 障害のある未就学児の保護者に対する学習用支援機器の紹介, 重度重複障害のある児童・生徒の授業におけるタブレット端末の活用法提案(視覚・聴覚・触覚刺激の呈示方法など)を行いました. 学校全体への支援として, 校内で実施する肢体不自由向け支援技術展示会へのアドバイス, 知的障害のある児童生向けのニュースコンテンツの紹介等を行いました.

【医療関係】検査や診察を終えた患者さんにご希望があれば支援技術に関する相談を受け付ける眼科での支援は10年を越えています. 障害者手帳を取得する前の「少し見えづらさがあり, 日常生活に困りごとが出てきた」という段階から支援技術の提案が行える新潟市ならではのサービスになっています.



2023 活動方針

- 2022年度までの個別支援を継続
- 「移行」に注目した個別支援

海外視察

米国オーランドで1月に開催されたATIAカンファレンス2023に参加しました. Assistive Technology Industry Assosiationが主催して年に一度開かれるカンファレンスです. アメリカの文化・法律の下で進化してしてきた機器の中には日本にはないカテゴリの製品もあり, 当センターの今後の活動に資する海外視察となりました.

研修事業・配信

対面・オンラインを組み合わせたウィズコロナの研修
受講者数、1,369名。再生回数、59,000回。
階層型支援の充実に向けた取り組み

対面研修

2022年度, 当センターが関わる研修を受講した人数はのべ1,369名になります. 感染症対策をした上での対面研修も多く実施できるようになりました(77件中7件がオンライン研修). 内容は肢体自由, 発達障害のある児童・生徒の学習環境整備, コミュニケーション支援, スマートフォン等身近なICT機器を活用した障害者支援など, 多岐にわたります.

対面の研修がコロナ禍以前の水準に戻り, 機器に実際に触れられる研修, 講師や他の受講生と直接ディスカッションできる環境が戻ったことで, 参加者の満足度も向上しています. 今年度は国際福祉機器展(HCR)にも講師として招かれました. 受講者の中には他自治体の福祉担当者もおり, 当センターの取り組みに関心がよせられました.

研修コンテンツ

YouTubeでのWebinar「ATティービー」を継続しています. 2022年度は40本の動画を公開しました. 年間の再生回数は59,000回, 再生時間は4,800時間を超えました. これまでに公開した動画は100本を超えています. 個別支援をした利用者が復習として視聴したり, 対面研修の参考資料としても視聴されるなど,「教材」として機能するようになっています.

また, 同じ方法でオンデマンド研修用コンテンツの制作も行っています. こちらは対面研修で実施していた内容を動画で伝えるものです. これまでに特別支援教育に携わる教員向けや作業療法士向けの研修などを実施しました. 受講者からは「子育ての隙間時間に自分のペースで学習できるのでありがたい」などの感想が寄せられました. 今後もコンテンツの充実を計画しています.

2023 活動方針

- 障害種・目的別の支援技術教育プログラムの開発
- プログラム開発のためのコンテンツ制作